

2024年2月18日

2023年度稲門会総会ご挨拶

稲門会会長 志賀 勉

合掌 春寒の候、皆様ご健勝のこととお喜び申し上げます。

日頃より、稲門会活動に関しましては、多大なご協力を賜り感謝申し上げます。

さて、2023年度はコロナ感染がインフルエンザ並みの第5分類に指定され、それ以降大学当局や競技スポーツセンターからの体育各部に対する制約が順次緩和されました結果、現役の皆さんは通常通りの生活を取り戻し、関東大会、厳しい夏合宿、新たな取組である特に若手OB・OGとの年間2回に亘る交流練習会等を経て、逞しく成長しました。

第61期宇田主将の下、少林寺拳法部は全日本学生大会で実に4年振りに見事総合優勝、女子総合優勝、女子立合評価法団体優勝、立合評価法重量級個人男子で藤井陸君が優勝の栄冠を勝ち取りました。体育会より団体名誉賞、個人名誉賞、篠原秀人監督に監督賞・稲門体育会賞が内定しております。誠にめでたうございます。

早慶戦はこの勢いを以て選手全員が不退転の決意を持って臨み、男女各5人制という新ルールの下、男女ともに慶應に勝利しました。2022年度の涙を呑んだ悔しさを晴らすべく全選手が全力を尽くして戦ったことに心から祝意と敬意を表します。

稲門会としましては、この成果を次の第62期門田主将並びに新幹部と共有し、体育会、競技スポーツセンターと協力しながら、更なる現役支援を図っていきたく思いますので、本年度も皆様方からのご支援、ご協力を宜しくお願い致します。

末尾となりましたが、時節柄皆様の今後益々ご自愛専一の程、祈念申し上げます。結手

<2024年度活動方針>

1. 現役部員支援活動を第一義とし着実に履行：
 - ・稲門会と現役部員間の情報交流、問題・課題を共有し解決に向けた活動を実践
2. 年間を通じ、稲門会組織の見直しと適材適所の人選：
 - ・既存役員の役割分担の見直しと配置替え、中堅・若手人材の起用、若手OB交流
3. 「早稲田スポーツ名鑑」への情報入力への推進：
 - ・先ず体育各部昇格以降の代を優先入力。各期幹事の協力を得、PJにて着実に入力
4. 将来への財源確保：
 - ・稲門会の安定的な運営を行うべく会費納入の推進を図り基金創設等の研究を始める
5. 創部65周年に向けての概略構想を練る：
 - ・3年後の2027年、創部65周年行事を想定して概略構想を検討し始める 以上

